

1年2016



「下関市教育センター」オープン

3月22日、教育の中心施設として教職員の研修・研究機能、教育相談機能と教育委員会事務局機能とを併せ持つ「下関市教育センター」(幡生新町1番1号)がオープンしました。



火の山ユースホステル「海峡の風」グランドオープン

3月5日、火の山の山麓に位置し、全客室から関門海峡や関門橋を間近に見渡せる最高のロケーションにある「海峡の風」がグランドオープン。



絶景を眺めながらのバーベキューや、下関名物のふく料理を手軽な値段で楽しめます。

3月

地域の取り組みが評価されました！



日本初のホタル舟



第20回ふるさとイベント大賞で「ふるさとキラリ賞」を受賞

3月3日、一般財団法人地域活性化センター主催のふるさとイベント大賞で、全国130イベントの応募のうち、豊田町の「日本初のホタル舟」がふるさとキラリ賞を受賞しました。この賞は特に優れた地域のイベントを全国に紹介し、個性豊かな地域社会の実現に大きな力となることを目的としています。

9月7日世界最大の旅行サイト・トリップアドバイザー「全国道の駅ランキング」で道の駅「北浦街道 豊北」が全国1位に輝きました。日本各地に1000以上ある道の駅の中から選ばれました。



「行ってよかった！道の駅ランキング2016」道の駅北浦街道 豊北が日本一に！

9月



下関市市民栄誉賞の授与

リオオリンピック柔道男子100キロ超級の銀メダリストの原沢久喜選手と(9月2日)、リオパラリンピック視覚障害女子マラソンの銀メダリストの道下美里選手に(9月30日)、下関市市民栄誉賞を授与しました。

11月

「下関市立歴史博物館」開館



11月18日、新しい博物館が長府川端二丁目にオープンしました。

この博物館は、歴史豊かな下関のふるさと学習や文化財観光の拠点としての役割を担っています。



写真で 振り返る

下関



4月



熊本地震で緊急消防援助隊出動、 応援給水活動

4月14日・16日に熊本県で発生した震度7の地震などにより被害を受けた地域に消防局から車両12台、98人の職員が出動し、6日間にわたり阿蘇市と南阿蘇村で救助・救急活動を実施しました。

上下水道局からも熊本市と玉東町に応援給水のため職員を派遣しました。

下関市内でも同地震で震度4を記録し、地震の怖さを実感しました。



7月

国内外から下関へ クルーズ客船誘致



7月8日、大型クルーズ客船「レジェンド・オブ・ザ・シーズ」が、長州出島に初寄港しました。7月17・18日には客船にっぽん丸の寄港に合わせて、「しものせき海の日フェスタ2016」も開催され、船内見学会、平家踊り&盆踊り大会、フラダンスなどのステージイベントが催されました。



ふくふくこども館入館者50万人達成

10月

子ども医療費助成制度開始

8月6日、市民の交流と子育て支援の拠点施設「ふくふくこども館」の入館者が50万人を達成しました。

また、10月1日から小学校に上がるまでの子どもを対象に実施している乳幼児医療費助成制度に加え、新たに小学生と中学生を対象として、保護者の所得による制限は行わずに、医療保険適用の医療費の自己負担(通常3割)の3分の1を助成する「子ども医療費助成制度」が始まりました。



ふくふくこども館(イメージ)

釜山広域市

姉妹都市締結40周年



10月18日、釜山広域市で本市との姉妹都市締結40周年記念式典が開催。本市からは中尾市長を団長とする市民訪問団が参列しました。同式典の中で、中尾市長が釜山広域市名誉市民章を授与されました。



「下関ふく」地理的表示(GI) 水産区分で国内第1号の登録



10月12日、下関唐戸魚市場仲卸協同組合が申請した「下関ふく」が地理的表示として登録され、「下関ふく」ブランドの更なる発展につながる事が期待されます。

下関の芸術・文化

海峡にきらめく、芸術・文化の光

芸術の秋恒例の市芸術文化祭。平成28年度は、美術部門に422点、文芸部門に376点の出品がありました。市芸術文化祭の各部門入賞者と、芸術文化振興奨励賞の受賞者を紹介します。

市民文化課 ☎231-4691

下関市芸術文化祭 美術・文芸部門受賞者

●美術部門

第1部



▲大賞 洋画 渡辺 美智子
【剥離(はくり)】



▲①洋画 石井 直美
【宴のあと】

第3部



▲①写真 梶間 幹雄 【青春の群像】

●文芸部門

大賞 俳句 井藤 一明

戦争がひよいと顔見す遠花火

①短歌 梶間 澄子

邪魔な枝切りて次第に止まらざり
切れ味のよき鋏をもちて

②俳句 広田 智恵子

③随筆 田中 博子

④川柳 吉野 研三

小・中学生 川柳優秀賞

甲斐田 実来(菊川中学校3年)

メダルより 汗と涙の 四年間

木下 遼(岡枝小学校5年)

なりひびく たいこすずの音 夏祭

神田 健心(王喜小学校6年)

なつまつり かげでささえる おやごころ

秋山 小陽(岡枝小学校6年)

花火咲く 笑顔も咲いた 夏祭り

久本 瑠菜(榑崎小学校6年)

わいわいと みんなでさわぐ 夏まつり

田村 奈央(西市小学校4年)

お祭りの 花火見ながら かき氷

第2部



▲①書 前田 路子(瑞華)
【送朱放賊退後往山陰】

- ②書 廣岡 徳子
- ③書 佐々木 美代子(桂扇)
- ⑥書 福川 博宣(勝山)

- ②洋画 首藤 優宗
- ③版画・水彩画等 武久 万里子
- ④洋画 林 裕子
- ⑤洋画 長峯 みどり

- ②工芸 加藤 邦彦
- ③写真 政村 美恵子
- ⑦工芸 黒柳 佳子
- ⑧写真 西村 利満

芸術文化振興奨励賞受賞者インタビュー

芸術文化振興奨励賞とは、芸術文化の分野で高い水準の創作活動を続けている市内在住の将来性ある個人、団体に対して授与するもので、今年度は3人の方が選ばれました。

●文芸部門 児童文学

山元 時枝 さん

「ハラの小鳥」で第7回グリム童話賞優秀賞を受賞するなど数々の受賞歴があり、今後も活躍が期待されます。

小学校1年生の頃、自分が書いた詩を当時の担任の先生にほめられたことがきっかけで、児童文学を書いています。挫折もありましたが、その先生の一言と、妖精がいるような不思議な世界への憧れで今でも書き続けています。

私にとって「創作」とは、自分自身も意識していなかった心の傷や感情の動きまで赤裸々にさらけ出し、それを主人公に体験させ、その心の傷を、素晴らしく、美しく修復していく作業です。その作業ができれば、より多くの人に読んでほしい、共感してもらえたいと思っています。

「自信」と「やる気」は同じで、自信を持つことができれば、やる気が出るというのが私の持論です。自分には何の取り柄もないと思っている子どもも多いと思いますが、それは自信がないから。本人も知らない大きな力を持っているんだということを通して子どもたちに伝えたいと思います。



受賞の恩返しとして、これから子どもたちを励ますことができるような、自信を持ってもらえるような作品を書きたいと思っています。

●美術部門 洋画

鵜木 政幸 さん

市内における水彩画の第一人者です。作家グループを主宰し、文化発信活動も精力的に行っています。

簡単に取れる賞ではないということを知っていたこの賞を、定年後の第二の人生をスタートしたタイミングでいただき、ありがたい気持ちでいっぱいです。



平成15年に私の妻もこの賞を受賞しています。絵描きとして尊敬していますが、絵の傾向が違うので、お互いの作品を客観的に見ることができ、毎日夫婦で絵の話もしています。

会社に勤めながらも、休日はほとんど制作をしており、描かないときは絵の構想を練ったり、展覧会に出かけたりしていました。今回の受賞は、そういう地道な生活の積み重ねが評価されたのだと思っています。

私は、風景を題材とすることが多く、自分自身が生まれ育った環境や風土など、無意識のうちに自分の中に取り込まれ、積み重なったものを、目の前の風景に触発され、自分の生きている証として描いています。

これからも創作活動に加え、私が主宰している作家グループ「展days」による作品展の開催などにより、下関の文化発展の力になりたいと思っています。

●音楽部門 ピアノ

久保 千尋 さん

国内外でのさまざまな音楽賞の受賞歴があり、確かな実力で幅広く演奏活動を行っているピアニストです。

音楽家である母の影響もあり、小さい頃からピアノで遊んでいたようで、3歳の時にはラジオ体操の曲や叔父が聴いていたレコードの曲を覚えて、ピアノで弾いていたそうです。

大学卒業後のドイツ留学では、当初ドイツ語が話せないことで苦労しました。日本人としてははつきりものと言う方なのですが、パーティなどで会話について行けず、「あの子は意思がない」と言われることもありました。

ピアノは誰でも音が出せる楽器ですが、同じ楽器でも弾く人によって音色が違い、その音色を変えることもできます。持ち歩くことができないので、演奏する場所にある楽器を使って、どれだけ自分の音が出せるかというのが難しいところでもあり、ピアニストの演奏を聴く面白さの一つでもあると思います。

今回の受賞をきっかけとして、今まで私の演奏を聴いたことがない人にも演奏会場に来ていただき、自分も演奏に関わっている、一緒に音楽を創っているという気持ちで音楽を楽しんでほしいと思います。

